



一紫会だより

題字 伊藤嘉夫先生

ごあいさつ

幹事長 羽吹綾子



一紫会会員の皆様、ごきげんよう。

新型コロナウイルスのパンデミック発生から三年目となる二〇二二年、コロナ禍という長いトンネルの先に希望と光の道筋が見え始めたように感じておりますが、いかにお過ごしでしょうか。

跡見学園は二〇二五年に創立一五〇周年を迎えます。本学園の更なる発展のため、一紫会より「跡見さくら咲く募金」に二十万円を寄付させていただきました。

新座キャンパスに新たな学生会館が完成したのを祝し、来年二月に新座キャンパスツアーを実施いたします。先輩・後輩の垣根を越え、同窓の輪を広げ、跡見とのつながり、絆を深く感じていただけたら幸いに存じます。皆様からのご応募をお待ちしております。

一昨年より「つながろう一紫会」をスローガンに掲げ活動しておりますが、今年度は三年ぶりに対面形式で総会、支部会が開催されました。コロナ禍の二年間皆様とお会

いできず寂しい思いをしておりますので、東北・新潟支部の皆様とも再会することができ、感激もひとしおでした。静岡では、第一回目となる支部会を十二月に開催予定です。また「関東にも支部会を！」という会員の皆様からのお声を多数頂戴しておりますので、新たに関東圏での支部会発足を目指し、努力していく所存でございます。

全国の会員の皆様が卒業後も楽しく学び直せる「リカレント教育」にも重点的に取り組み、オンラインで視聴できる講演「一紫会アカデミー」を設立いたしました。記念すべき第一回は小仲信孝学長に「女子教育の時代を生きる」跡見花蹊と樋口一葉」についてご講演いただきました。

跡見花蹊先生と樋口一葉。その類稀な才能を発揮し、自分の力で生きる道を開拓した女子教育者と女流作家、それぞれの先駆者であるお二人の情熱と先見の明という共通点が百年以上の時を超えて重なり合い、今を生きる私たちの心に強く響き、小仲学長の熱意がひしひしと伝わってまいりました。

『一紫会だより』題字は第二代学長の伊藤嘉夫先生のお筆によるものですが、伊藤先生は跡見ゆかりの紫を『古今和歌集』の紫草に重ね合わせ、その一本を生徒一人ひとりになぞらせ、学歌「紫のひとと」を作詞されました。そのお心は「各々の根

ざした地はいずれであろうとも、卒業生一人ひとりがゆかりを得たすべての人に慕われ、花蹊の教えの輪が広がりにくように」というものです。この「紫のひとと」にこめられた思いを忘れることなく、卒業生がいつまでも大学に寄り添い、心を通わせる場のひとつが一紫会でありますようお願いしております。

最後になりましたが、一紫会では多くの会員の皆様にご参加いただけるよう一紫会アカデミーをはじめ、富川淳子先生と巡る角川武蔵野ミュージアム、宝塚歌劇の観劇会、キャンパスツアー、オンライン作品展、一紫会公式LINEの開設など、今後も積極的にオンラインと対面形式を併用し、サステナブルな活動に一層取り組んでまいります。

新たな卒業生九九七名も加わり、「つながろう一紫会」をスローガンに、皆様に寄り添っていただける一紫会を目指し常任幹事一同努めてまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスが一日も早く終息し、平穏な日常に戻る日々を願い、全国の会員の皆様と笑顔で再会できますことを心待ちにしております。またお目にかかれる日まで、ごきげんよう。

巻頭ごあいさつ	1
小仲信孝学長	2
山崎一穎理事長	3
笠原清志先生	4
支部会だより・会員分布	5
一紫会作品展2022	6
宝塚観劇のご案内	7
キャンパスツアー	8
会員だより・渋沢栄一氏関連施設	9
『一紫会だより』紙面希望制	10
総会報告	11
大学より・事務局より	12

新学長ご挨拶

学長 小仲信孝 先生



本年四月より学長に就任いたしました。平成二年に短期大学に着任して以来、跡見学園での教員生活三十三年目を迎えます。大学では平成十九年から文学部人文学科で近代日本文学を担当してきました。その間、文学部長、大学評議員、学園理事なども務めてきました。どうぞよろしくお願いいたします。

一紫会の皆様には、日頃より多大なご支援をいただき、ありがとうございます。「跡見校友会一紫会修学援助奨学金」は、経済上の理由で学業の継続が困難になった学生たちにとって大きな支えとなっております。また、「跡見校友会一紫会大学院奨学金」は、大学

院生の研究活動を促進する礎として、多くの研究成果を生んできております。皆様方のご理解とご支援に対して改めて厚く御礼を申し上げます。

ご承知のように、二〇二五年、跡見学園は創立一五〇年を迎えます。「跡見学校」開校からこの一五〇年間で、社会は大きく変化しました。明治期の女性の役割は、いわゆる良妻賢母として男性をサポートし、よりよい家庭を作ることでした。しかし、現代では価値観は多様化し、女性の社会進出が普通になりました。実社会のなかでポジションを得て活躍し、自己実現と社会貢献を両立できる存在であること。それが現代における「自律し自立した女性」像といえるでしょう。

学生たちにとって大学での四年間は、自分と向き合いながら自己理解を深め、五年後、十年後の将来像をキャリアデザインするための貴重な時間です。大学ではいま、キャリア教育の充実を大きな柱のひ

とつとする新たな教育課程編成作業を始めているところであります。つねに時代に合った教育を模索し、改革を続けることを肝に銘じていきたいと思っております。

ふり返ってみますと、ここ三年はコロナ禍に翻弄される日々でした。これまでの「あたりまえ」がまったく通用しない困難な状況に遭遇してきました。社会全体が従来の制度や価値観の変更を余儀なくされたといっても過言ではないかもしれません。大学ではキャンパスから学生の姿が失われ、当初はオンライン授業のみとなり、学生たちに本来のキャンパスライフを提供することができませんでした。

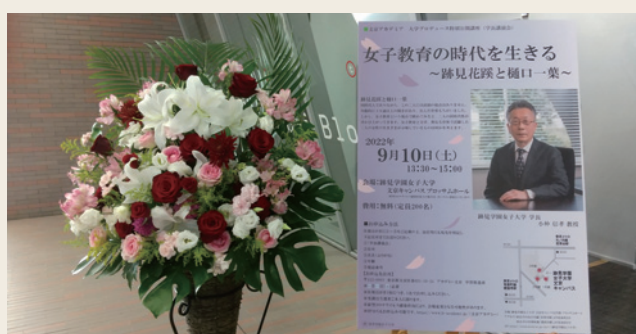
こうした経験のなかで学んだことがいくつかあります。その一つは、「対面」の重要性です。オンラインでも、もちろん授業は可能です。しかし、顔の見えない学生に向かつてしゃべるだけの講義は、手応えというものを感ぜません。オンライン授業に慣れてから

も戸惑いは消えませんでした。学生たちは授業形態もさることながら、学校へ行けない、仲間と交流できない——本来的な学生生活の豊かさを享受できないことに不満と不安を感じていたのではないかと想像します。「対面」の状況がほぼ戻りつつある現在、直接的なコミュニケーションの貴重さを再認識しています。

もう一つは、オンラインの可能性です。オンライン授業についてはマイナス面ばかりに目が行きがちですが、利点も多くあります。オンラインの活用抜きにはコロナ後の大学教育を語れない状況がすでにありますが、教育現場に限らず、活用法次第では、新たな世界をもたらしてくれる可能性を秘めていることはいまでもありません。

最大のメリットは時間と空間の制約を超えられることでしょう。年代を問わず多くの人間がネット環境を手に入れている現在、世界中、どこでも、いつでも、誰とでもつ

ながることができるオンラインツールを利用しない手はありません。一紫会の皆様とも、オンラインを活用した新たなつながりを構築できないかと考えております。この度開催されました一紫会アカデミーはその試みの一つです。これを機に母校の「へいま」を知っていたく機会を増やしていきたい、将来的には、三万五千名を超える卒業生の皆様と大学との交流、情報交換の場としたいとも考えております。



2022年9月10日の学長講演

《森鷗外生誕二六〇年・没後二〇〇年》

没後二〇〇年

森鷗外生誕一六〇年・没後一〇〇年に際し、特別に山崎先生の研究者を超えたお心を伺いました

今語る、鷗外と私

跡見学園理事長

山崎一穎先生



大学での近代文学の授業

は、漱石を中心に自立的に人生を歩む女性を対象としてきた。卒業して同窓会で、夫と子供のことしか語れない女性になってほしくない。私がどう生きてきたかを語れる女性となるために、中広く明治大正の文学を読んできた。

鷗外研究は趣味で良い。卒業論文「森鷗外の歴史小説研究」以来、研究方法は変わっていない。それは鷗外の使用し

た資・史料と小説との比較検討である。鷗外の資料は東京大学鷗外文庫、天理大学附属天理図書館、日本近代文学館、文京区立本郷図書館、母校の早稲田大学図書館、国会図書館にある。これらに通った。

昭和六十年代、森鷗外記念会（年二回研究誌「鷗外」を発行）の常任理事に就任した。以来、森家との交流が始まった。鷗外の二女杏奴氏、三男類氏ともにお元氣であった。

私は跡見での人生を三〇代は学生指導、四〇代は学長として行政職にあり、五〇代で研究者となったと総括している。

研究者となった切っ掛けは、平成三年三年生のゼミの学生と萩・津和野の史跡を巡った。津和野で来年鷗外生誕一三〇年となるので展示監修を中島助役から依頼された。中島氏はのちに町長となり、日本で最初の森鷗外記念館を平成七年四月建ち上げた。

私は一三〇周年の展示と記念館の展示監修者として関わり、開館後は運営協議会会長

を務め、平成二十四年一月館長となった。土・日を利用して年六回津和野へ通っている。文学館は私の研究の場である。

津和野では森家の過去帳と墓石との対比調査に始まり、鷗外上京の途を探った。城下絵図から森家の転宅や、調査依頼のあった家譜から森家の分家の存在が始めて明らかにになった。趣味は楽しい。

鷗外資料の中心は書簡や扁額類である。くずし字が読めない。訓練を怠った報いである。柴田光彦先生、岩田秀行先生、横田恭三先生のお力を借り続けている。

津和野も森類氏の長子哲太郎氏や本家の眞章先生、富先生からの資料、鷗外本のコレクション・種市登氏の七千冊の資料と合わせて充実してきた。

私は津和野、文京区の森鷗外記念館の展示を監修しているが、常に差異化をしている。

近年鷗外長女茉莉さんの嫁いだ山田珠樹家との交流ができた。珠樹先生の長子齋先生が岡谷公二先生と親交があり、岡谷先生の紹介で山田家と親

交を深めている。今度の鷗外宛書簡四〇〇通が、山田家から津和野へ入った。

今年は鷗外没後一〇〇年、生誕一六〇年の記念年である。春陽堂から鷗外直筆の史伝の出版広告文に続いて、文京の森鷗外記念館が史伝「渋江抽斎」の原稿の出現を公表した。これらの資料に立会い、眼福を得、至福の時間は何ものにも代え難い。

一紫会のみなさんは、読書を趣味としないで下さい。読書は食事と同じです。読まなければ心が痩せ枯れます。



森鷗外

記念館全景



森鷗外記念館(津和野)提供

《今こそ読みたい森鷗外》

●個と組織――

「舞姫」「阿部一族」

●自己と他者の関係――

「妄想」「山椒大夫」「高瀬舟」

「渋江抽斎」

●夫と妻とがどう向き合っているか――

鷗外「半日」

志げ夫人「波瀾」

●社会的事件と政治――

「魔睡」「沈黙の塔」「かのやうに」「堺事件」「大塩平八郎」「最後の一句」

●エッセー――

「我をして九州の富人たらしめば」「サフラン」「空車」

●詩歌集――

「うた日記」「我百首」（『沙羅の木』所載）「奈良五十首」

跡見学園創立一四〇周年、女子大学開学五〇周年記念に「舞姫」の原稿を購入した。学術研究に資するために原稿から複製版を作製し、頒布する計画が進行中である。今、私はその「解説」を書いている。説明用のビデオの作成も予定している。乞うご期待。

二〇二二・八・二五

学長退任のご挨拶

笠原清志 先生



(一)はじめに

平成二五年四月から九年間、跡見学園女子大学マネジメント学部教授を務め、また平成三〇年四月から四年間は、学長として大学行政を担当させていただきました。任期後半の二年間は、コロナの問題が深刻化した時期でもありました。オンライン教育への移行と維持に多くの時間とエネルギーが費やされ、対面授業を長期に渡って中止せざるを得ない時期でもありました。このような状況の下で、幾つかの政策課題には着手できなかったことは残念でなりません。

(二)建学の精神と教学改革

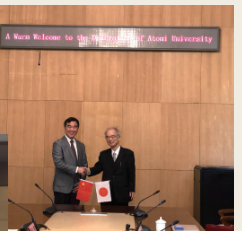
跡見花蹊先生の教育観には、日本文化に根差した教養の重要性、そしてそれに基づく「自律し自立した女性」の育成という理念があります。明治という

時代の黎明期に、このような先進的な、そして現在の日本にも通じるような女性観と職業観を持っていたことに本学で教育、研究に携わるものとして誇りを感じておりました。

教学改革のキーワードは、学長就任時から「伝統文化による跡見の再生」、「跡見的リベラルアーツ」、「自分の夢と社会貢献」、「ジェンダー教育」、「女性としての職業意識」、「大学史を基軸にしたブランディング」であると思っています。以上の視点は、カリキュラム改革、教学改革の方針に反映されており、今後の跡見学園女子大学の教育の内容をさらに充実させていくものと思っています。

他方で、大学のグローバル化については、コロナの問題もあり、十分な展開ができませんでした。アジア諸国の大学との交流拡大については、平成三〇年十一月に韓国の東義大学、令和一年五月に中国の北京外国語大学との学術交流協定の締結を行いました。しかし、連携強化に入る直前にコロナの問題が深刻化し、全てのプログラムが中止し、今日に至っているという状況になってしまいました。

中国北京外国語大学との調印式→



←韓国東義大学との調印式

(三)一紫会各支部への訪問

私立大学にとって、「在校生の保証人や卒業生との連携」は、重要な社会的ネットワークと財産であると言われています。

在職中、山崎理事長、一紫会幹部の方々とともに、最初の二年間で十一支部、つまり北海道支部会(札幌)東北支部会(福島)新潟支部会(新潟)北陸支部会(金沢)甲信支部会(長野)中部支部会(名古屋)関西支部会(大阪)中国支部会(大崎上島)四国支部会(高松)九州支部会(福岡)を訪問し、交流できました。後半の二年間はコロナの問題で全ての行事が中止になり、静岡支部には残念ながら最後まで訪問できませんでした。

各支部の方々は、卒業後、故

郷に帰られた方、結婚や仕事でその地方にお住まいの方と色々でした。理事長と私の訪問を本当に楽しみにしておられ、学生時代をともに語る時には、表情も気持ちも完全に学生時代に戻ってしまう不思議さを感じました。母校が青春の思い出と重なり今日に至っている以上、跡見学園女子大学は常に輝いていなければと痛感した次第でした。

当時、お茶の水女子大では、男性でも自らを女性として認識している人には受験を認める、という決定をしていました。他の女子大学でも同様の動きがありましたので、懇親会の席で「跡見学園女子大学は、どうでしょうか」という私の問いかけに、実に多様な意見をお聞きすることができ、大変勉強になりました。「この件、跡見学園女子大学では、ゆっくり、しかしちゃんと検討していきます」と言ってくれ、その後お会いできなくなりましたことが残念です。

一紫会がオンラインを通じた勉強会をスタートさせたことは、画期的であり本当に重要なことと思っています。大学は多様な分野の先生方が在籍しており、「知の宝庫」とも言えます。大学

との関係が卒業によって終わるのではなく、卒業後も大学の「知のネットワーク」の中で生活し、それを自らの生涯学習の一つと考える視点は重要です。

(四)外部大型資金の導入

令和三年度には、東京都の「大学等と連携した観光経営人材育成」事業に本学の「コロナ禍での観光の未来を考える…インバウンドのセカンドステージ」の課題と人材育成——ジェンダー、異文化理解、ハラル対応」(三年継続)が採択されました。本学にとって初めての大型外部資金の導入であり、当プロジェクトを通じて観光学分野での教育、研究の推進、そして社会的ネットワークの拡大が期待されます。

私事ですが、四月一日に世田谷生涯大学の学長に就任しました。地域社会における高齢者の教育支援を通じて、日本社会の高齢化の問題を考えていきたいと思っています。学長退任にあたり、多大なご支援とご協力を賜りました一紫会の皆様に改めてお礼申し上げます。末筆ながら、跡見学園女子大学一紫会の益々のご発展を祈念しています。

支部会だより

第9回 東北支部会

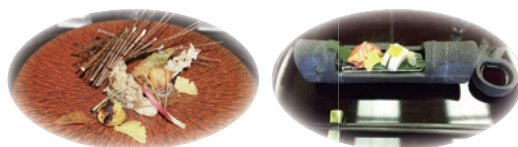
◆令和4年9月4日（日）

◆ホテルメトロポリタン盛岡

◆ニューウイング「対い鶴」にて

◆出席：山崎理事長・小仲学長

参加会員12名



↑盛岡市議会議員 加藤麻衣様による卓話「LGBT」について

第9回 新潟支部会

◆令和4年10月15日（土）

◆ANAクラウンプラザホテル新潟

「妙高」にて

◆出席：山崎理事長・小仲学長

参加会員14名



↑新潟ならではの「新米コシヒカリの塩おにぎり」

令和4年度 会員分布状況 (2022.8 現在)

会員の方は在宅地域の支部会へ参加することができます。
一紫会では、運営費全般と会費の一部を援助しております。
支部会についてのご希望やご意見をお寄せください。
(メール・FAX・郵送、宛先はP.12参照)

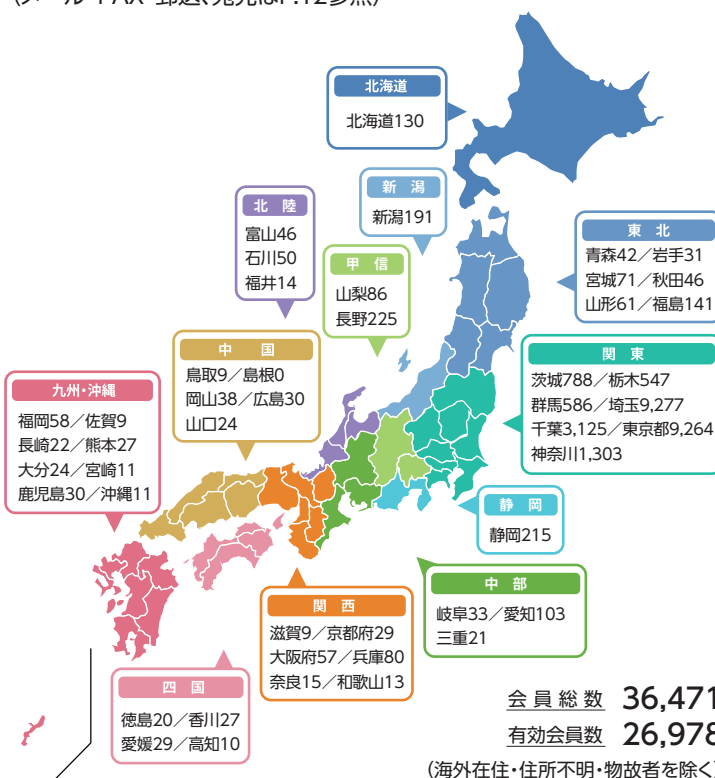


*詳しくは一紫会ホームページの **会員の絆** から「送りっぱなしのレター」をご覧ください。

一紫会
公式LINE
できました!



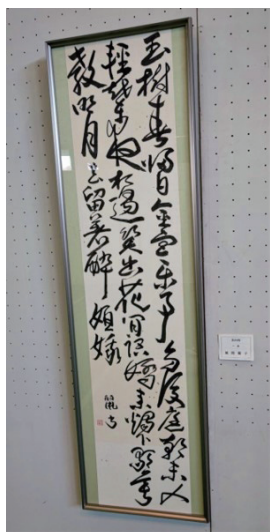
一紫会イベントなど様々な情報を公式LINEで発信いたしますので、是非お友だち登録をお願いいたします



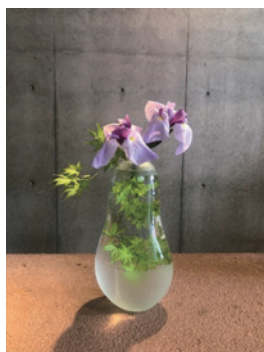
一紫会作品展2022年《紙上映写》

2021年度の卒業生によるオンライン作品展に続き、今年度はホームページ企画として一紫会作品展の募集を行いました。
 会員の方々より様々な作品が寄せられましたのでご紹介いたします。
 一紫会ホームページでは、下記の作品を動画でご覧いただけます。併せてお楽しみください。

2022年度 作品展



④



③



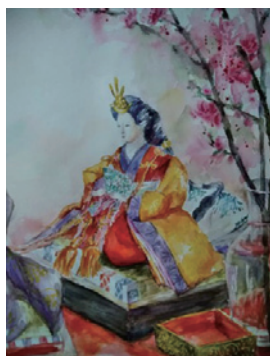
②



①



⑤



⑧



⑦



⑥



⑪



⑩



⑨

① 国文 17 回生 宮沢美穂 クレイフラワー「ライラックの風」	② 英文 8 回生 酒井和子 書道「魚鳥来親人」
③ 美学 3 回生 片桐悦子 いけ花「水際での出会い」	④ 国文 37 回生 風間麗子 書「宮中行楽詞 八首 第四則」
⑤ 文化 10 回生 飯田多恵子 テーブルコーディネート「夏のおもてなし」	⑥ 英文 4 回生 異相由美 絵画刺繍 「Visby の思い出 (スウェーデンのゴットランド島の港町)」
⑦ 美学 13 回生 斉藤紀子 てまり「伝統とモダン I」	⑧ 美学 13 回生 佐藤亨子 水彩画「雛の宴」
⑨ 美学 19 回生 亀田多香子 油絵「Lavie en rose」	⑩ 美学 2 回生 吉田真知子 陶芸「蓋のある壺シリーズ」
⑪ 国文 10 回生 谷奥祥子 ハンギング	

2023 年作品展募集

詳しくは一紫会ホームページの募集要項をご覧ください。奮ってご参加ください。



一紫会公式ホームページ

一紫会主催 第25回観劇会 「宝塚歌劇」のご案内

東京宝塚劇場(日比谷)
令和5年3月5日(日)11:00開演
S席会員6,000円
同伴8,500円(ご家族1名)
《一紫会オリジナルマスク&チケットホルダーのお土産付》
限定150名様

宝塚歌劇 花組公演
ミュージカル・ロマン『うたかたの恋』
タカラヅカ・スペクタキュラー『^{アン・シヤント・マン} ENCHANTEMENT—^{バルファン}華麗なる香水—』

クロード・アネの小説「マイヤーリンク」をもとに、皇太子
ルドルフと男爵令嬢マリーの悲恋を儚くも美しくドラマティック
に描いた宝塚歌劇の代表作『うたかたの恋』。

世界中の人々を魅了する香水をテーマに、古今東西の様々な
名香から想起される美しい恋、幻想、夢を、タカラヅカ・レビュー
に昇華し、魔法のような時間をお届けする荘厳華麗なレビュー
作品『ENCHANTEMENT—華麗なる香水—』にご期待ください！

出演：柚香光・星風まどか・水美舞斗・永久輝せあ 他

◆お申込方法◆

メール・ハガキ・FAXにて、「観劇会希望、〒住所・氏名・回生・学科・当日
連絡可能な電話番号・メールアドレス・同伴者名(続柄)」をご記入の
上、お申し込み下さい。

※会員同士でお申込みの場合は代表者が全員の必要事項をご記入
ください。

締切り：12月20日(火)必着

お申込みされる方へ

- ◆お申込みいただいた方全員に結果をご連絡いたします。観劇該当の方には入金方法・
詳細等をご案内いたします。
- ◆代金払込後のキャンセルや返金はできませんのでご注意ください。
- ◆観劇者の把握が必要なため、必ず観劇者本人が観劇される前提でお申込みください。
- ◆劇場入口にて手指消毒・検温にご協力をお願いいたします。37.5度以上の場合は
入場できません。
- ◆マスクを着用いただけない会員（フェイスシールド・マウスシールド等）は観劇
できません。
- ◆新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、直前に公演中止となる場合もござ
います。

「宝塚歌劇」の観劇会は一紫会として初となります。
チケットを取ることが難しい宝塚歌劇の華やかな舞台を
この機会にぜひいかがでしょうか。
定価S席9,500円が会員価格でご覧になれますので、
皆様からたくさんのご応募お待ちしております。

一紫会主催

跡見の過去は 今の私

—跡見の未来は 未来の私

第6回

キャンパスツアー参加者募集

跡見学園女子大学HPより

147年前に開学された跡見。1965年ここ新座に大学開校。学祖の教育理念と常に先端を行く学問に導かれ、2022年までの4年間で今の私たちを創りました。

そして今、跡見の創る未来は、私たちの未来を示しています。

今こそ、新座キャンパスに帰り、“原点回帰の扉”をご一緒に開けてみましょう。

ご参加お待ちしております。

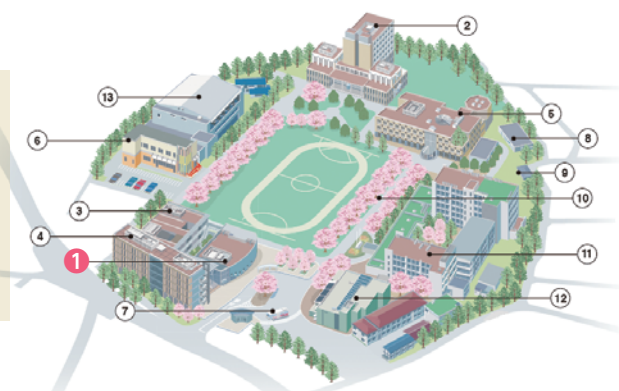
日 時：2023年2月4日(土) 13時30分～15時30分

集 合：花蹊メモリアルホール

参加資格：一紫会会員とそのご家族・知人

会 費：無料

《一紫会オリジナルマスク&五十年史&跡見どら焼きのお土産付》



跡見学園女子大学HPより

◆お申込方法◆

メール・ハガキ・FAXにて、「キャンパスツアー希望、〒住所・氏名・回生・学科・当日連絡可能な電話番号・メールアドレス・同伴者名(続柄)」をご記入の上、お申し込み下さい。

●会員同士でお申込みの場合は代表者が全員の必要事項をご記入ください。

●後日、**参加証**をお送りします。

①花蹊メモリアルホール

②2号館(花蹊記念資料館)

③3号館

④4号館

⑤図書館

⑥学生会館

⑦バス停留所

⑧心理教育相談所

⑨不言亭

⑩メインストリート

⑪1号館

⑫グリーンホール

⑬体育館

締切り：12月20日(火)必着

跡見学園女子大学学生会館が完成 ～新座キャンパス～



外観①



談話スペース



合宿スペース

「跡見学園創立150周年記念事業」の一環として新座キャンパスに新たな学生会館が建設されました。学生会館は体育館に隣接し、合宿舎とクラブハウスの機能が集約されています。

2022年7月4日(月)に行われた竣工式には、一紫会からお祝いのスタンド花をお贈りし、羽吹幹事長が出席しました。



外観②

写真：跡見学園女子大学提供

泉雅博先生

ご退任に際して

企画担当

50 回生人文 菅原佑香
51 回生人文 伊藤舞星
52 回生人文 大串真未

恩師泉雅博先生のご退任に際し、感謝の気持ちを伝えようと書き贈呈の企画が持ち上がり、泉ゼミ卒業生三名が一紫会のご協力のもと各地のゼミ生に声をかけました。約百名の方が応じてくださり、今もゼミ生の中に先生の授業や思い出が生きていることを実感しつつ、届けられた写真や書きを桜のモチーフとともにアルバムにまとめ、令和四年三月十六日に院二年生が代表して直接先生へ贈ることができました。先生も「素敵なゼミ生に恵まれた」と心から受けとめてくださいました。

ご協力頂いた皆様はこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



泉雅博先生

島本融先生を偲ぶ

5 回生美学 榎本美恵子

本学で約十年間、美学美術史の教鞭を執られた島本融先生が昨年八月に逝去されました。独身であられたため新聞受けの異変で発覚というお気の毒な最期でした。享年九十四歳。

昭和四十四年入学間もない頃でした。島本先生の研究室をお訪ねしたとき、書棚にあった一冊の文庫本が目に入りました。「この方は、二十六歳で命を絶った歌人ですよね」と話しかけると先生は驚いた様子で振り向かれました。河井醉茗編集「江口きち歌集『武尊の麓』より」は、一週間ほど前池袋の書店で立ち読みしたばかりでした。河井醉茗は詩人であるとともに多くの文人を育て、近代文学に多大な貢献をされた方です。江口きちもお弟子さんの一人でした。醉茗の詩「ゆずり葉」は小学五年生の国語の教科書に載り一人一人暗唱させられた記憶があります。しかも島本先生のお父様であることも知らされ、この奇跡とも言える出会いが、以後五十年続く先生と生徒としての出発点でした。

目黒川に桜吹雪の舞う季節、初めて先生のご自宅を訪ねると「塔影詩社」と書かれた立て札が見え、詩の題材となったゆずり葉の樹が伸びていました。作家の島本久恵さん（お母さま）が

執筆中の筆を休め、戦前目黒に居を構えた頃の話をされ、この部屋に多くの文人や社友の皆さんが集まり文学論議が絶えることがなかったというお話をしてくださいました。

先生は跡見学園女子大学、女子美術大学、群馬県立女子大学、東京工芸大学等で教鞭を執られました。美学美術史の講義では、人間の内面の負の部分や否定的な面にも光を当て、悲劇美なるものの真髄を追求されていたように思います。その反面、くすつと笑いたくなるようなユーモアを忘れない一面がありました。また関東各地の寺院や美術館を巡る文化財拝観の校外学習を頻繁に企画され引率してくださいました。

平成に入り、首都圏在住の教え子達七八人が、一人住まいの先生宅の掃除や家事のお手伝い、日用品の持ち寄りなど身の回りのお助けをしました。その締め括りはお茶とお菓子で先生の皮肉交じりのお喋りです。

「供養と顕彰 ゆずり葉の会」

教え子たちの手で顕彰事業を進めています。顕彰碑の建立、著書の形見分け、追悼文集の出版などです。先生の授業を受けられた皆様からのご連絡をお願いいたします。メッセージをお寄せ頂ければなお幸いです。連絡先等はインターネットでご覧ください。「供養 顕彰 ゆずり葉」で検索できます。

公益財団法人 渋沢栄一記念財団 渋沢栄一史料館 訪問記

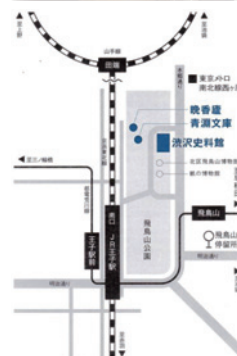
2021 年 11 月 11 日、正に青天を衝く小春日和の下、JR 王子駅から徒歩 5 分の飛鳥山公園内の渋沢史料館へ。

見学は旧渋沢庭園内の晩香廬（重要文化財指定）から。洋風茶室として、レセプションルームとしての存在感は、その佇まい、調度品から、大正初期の建築美まで味わうことが出来ました。次に向かいましたのは青淵文庫（重要文化財指定）、渋沢氏の書庫として、国内外賓客の接客の場として、家紋の柏葉をデザインしたステンドグラス・タイルがひととき目を引く美しいものでした。

再び、2020 年リニューアルオープンの史料館へ。館内では渋沢氏の生涯、業績に文字通り“ふれる・たどる・知る”空間を満喫。この日の展示は、「渋沢栄一から妻千代への手紙」で、三館と紙の博物館（氏の事業の一環）を散策し、渋沢氏の妻子との強い絆、実業家としての厳しい面を共に知る旅となりました。

学祖花菱女史と渋沢栄一氏は、1840 年に同じく生をうけ、志高く、学問に深く、行動力に富み、自律と自立を図る生き方を旨とし、女史は女子教育を、氏は実業家として今日まで継続する基礎を築られました。公私ともに親しく、氏は女史をリスペクトし、女子教育支援として跡見の力となって下さいました。

今回は深谷の渋沢栄一記念館・旧渋沢邸をご紹介します。



①② 渋沢史料館 ③ 晩香廬
④ 青淵文庫 ⑤ 紙の博物館

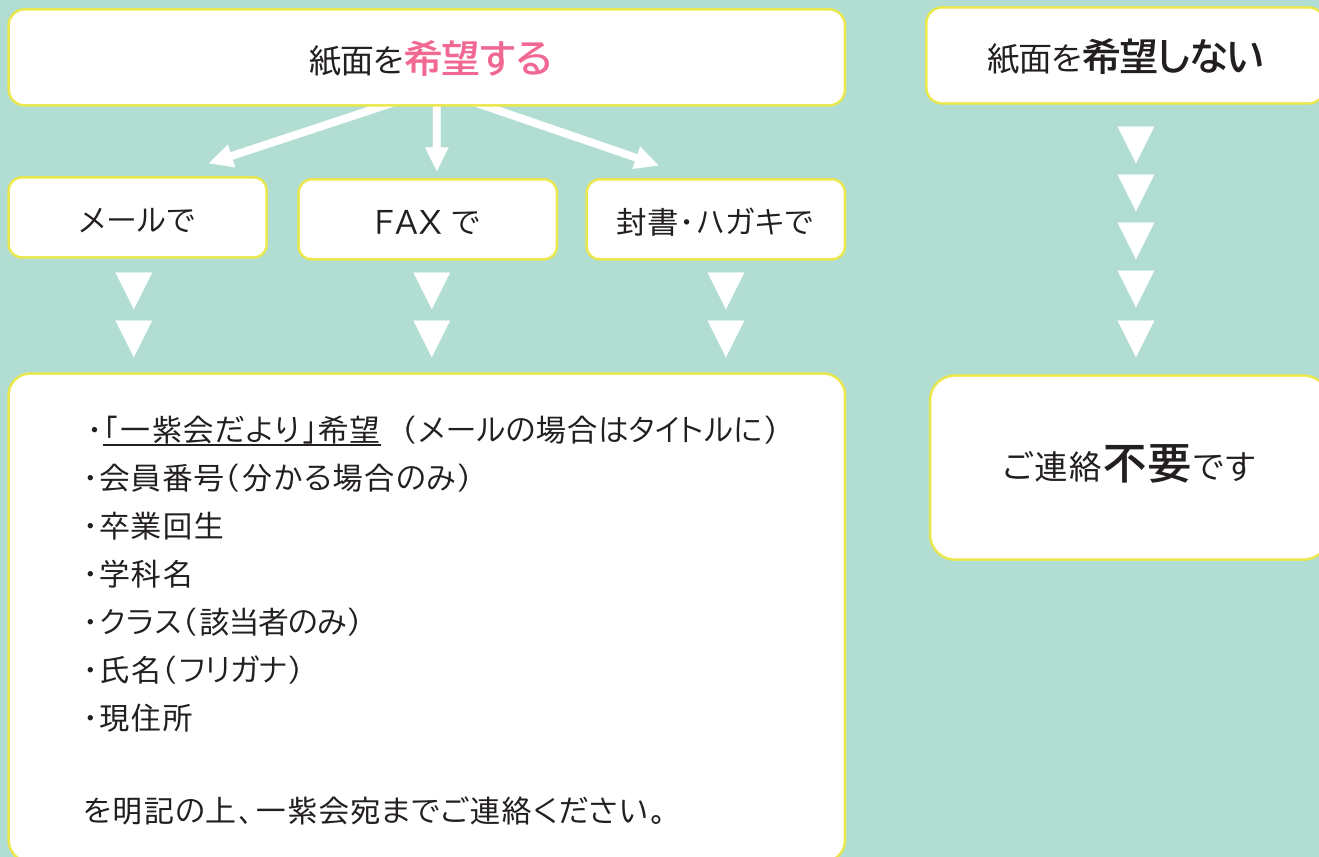
一紫会だよりは

2026年度から希望会員のみへの送付となります!

『一紫会だより』紙面希望制の調査

一紫会では『一紫会だより』を紙面で受け取りたい方の希望調査を行います。

今後も紙面の郵送を希望なさる方は、下記の手順でお申し出ください。



メール

isshi-kai@atomi.ac.jp

FAX

03-3941-8642

住所

〒112-8629

東京都文京区大塚 1-5-9 跡見学園
跡見校友会一紫会



一紫会公式ホームページ

* 希望調査は今年度より 2025年度までを目安に継続して行ってまいります。

2025年度までは現行通り全会員（※一紫会本部にて現住所を把握できている会員）へ送付いたします。

*『一紫会だより』は一紫会公式ホームページにも掲載されていますので、是非ご活用ください。

希望調査へのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

総会報告

令和四年五月二十九日（日）、文京区の林野会館にて一紫会幹事総会を開催いたしました。対面での総会は三年ぶりとなりましたが、新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、ご出席者の方々の協力のもと審議は進み、すべての議案について可決されました。



①③総会風景
②ご出席の新幹事 54回生臨床心理学科 山田裕里恵様

新幹事紹介

本年度第五十四回卒業生より、左記の方々が一紫会幹事をお引き受けくださいました。（敬称略五十音順）

《文学部》

人文学科

亀割あずみ・椎名花帆

現代文化表現学科

荒古泰葉・小林真生

コミュニケーション文化学科

赤羽真美・鈴木彩加

《心理学部》

臨床心理学科

水谷早希・山田裕里恵

《マネジメント学部》

マネジメント学科

鈴木叶凜・野村美紅

生活環境マネジメント学科

加藤奈菜佳・佐野恵美

《観光コミュニティ学部》

観光デザイン学科

佐藤純夏・吉川瑞菜

コミュニティデザイン学科

津嘉山果凜・波多江詩織

守田梨花

イベントスタッフ募集

一紫会では、イベント等で常任幹事をお手伝いいただける方を募集しております。

〒住所・氏名・回生・学科・電話番号・メールアドレスをご記入の上、お問い合わせください。

令和3年度収支決算報告

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

(収入の部)		(単位：円)			
	科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	備 考
収 入	会 費	23,880,000	21,880,000	△ 2,000,000	1,094名
	事 業 収 入	10,000	3,000	△ 7,000	
	受 取 利 息	200	107	△ 93	
	前年度繰越金	2,829,082	2,829,082	0	
合 計		26,719,282	24,712,189	△ 2,007,093	

(支出の部)		(単位：円)			
	科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	備 考
事 務 費	通 信 費	4,000,000	3,282,509	△ 717,491	
	印 刷 費	2,000,000	1,724,309	△ 275,691	
	企 画 費	5,000,000	529,025	△ 4,470,975	
	記 念 品 費	4,000,000	3,454,160	△ 545,840	
	慶 弔 費	100,000	0	△ 100,000	
	校 友 会 入 会 金	292,800	292,800	0	976名
	交 通 費	1,000,000	578,960	△ 421,040	
	人 件 費	3,000,000	3,200,000	200,000	
	会 議 費	500,000	68,708	△ 431,292	
	交 際 費	200,000	111,550	△ 88,450	
	備 品 費	50,000	903,936	853,936	
	消 耗 品 費	300,000	151,843	△ 148,157	
	監 査 費	60,000	60,000	0	
	雑 費	100,000	56,811	△ 43,189	
奨 学 金	予 備 費	16,482	0	△ 16,482	
	大 学 院 奨 励 金	600,000	416,850	△ 183,150	
	修 学 援 助 金	4,000,000	2,310,300	△ 1,689,700	
	海 外 研 修 助 成 金	1,500,000	0	△ 1,500,000	
小 計		26,719,282	17,141,761	△ 9,577,521	
本年度剰余金		0	7,570,428	7,570,428	
合 計		26,719,282	24,712,189	△ 2,007,093	

全 会 員 数：36,469名
終 身 会 費 預 り 金：68,040,000
終 身 会 費 積 立 金 残 高：28,920,900

令和4年度収支予算

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月31日

(収入の部)		(単位：円)	
	科 目	予 算 額	備 考
収 入	会 費	16,700,000	835 名
	事 業 収 入	10,000	
	受 取 利 息	200	
	前年度繰越金	7,570,428	
合 計		24,280,628	

(支出の部)		(単位：円)	
	科 目	予 算 額	備 考
事 務 費	通 信 費	3,800,000	
	印 刷 費	2,000,000	
	企 画 費	3,500,000	
	記 念 品 費	4,000,000	
	慶 弔 費	200,000	
	校 友 会 入 会 金	299,100	997 名
	交 通 費	1,000,000	
	人 件 費	3,500,000	
	会 議 費	200,000	
	交 際 費	200,000	
	備 品 費	50,000	
	消 耗 品 費	200,000	
	監 査 費	60,000	
	雑 費	100,000	
奨 学 金	予 備 費	71,528	
	大 学 院 奨 励 金	600,000	
	修 学 援 助 金	2,000,000	
	海 外 研 修 助 成 金	1,500,000	
積 立 金	終 身 会 費 積 立 金	1,000,000	
合 計		24,280,628	

退職された先生方

学長・マネジメント学部マネジメント学科教授
笠原清志先生

文学部人文学科教授
泉雅博先生（名誉教授）

文学部人文学科准教授
クリストファー・ブルスミス先生

文学部人文学科准教授
真辺美佐先生

文学部現代文化表現学科教授
高木庸先生（名誉教授）

文学部コミュニケーション文化学科教授
小板橋靖夫先生

文学部コミュニケーション文化学科助教
マクラウド・コリン先生

観光コミュニティ学部観光デザイン学科講師
村上雅巳先生

心理学部臨床心理学科教授
野島一彦先生（名誉教授）

訃報

文学部美術史学科教授
島本融先生

令和3年8月21日 享年94歳

観光コミュニティ学部観光デザイン学科
松坂健先生

令和3年10月8日 享年72歳

文学部美術史学科教授
青木茂先生

令和3年11月15日 享年90歳

名誉教授
高橋六二先生

令和4年2月9日 享年81歳

観光コミュニティ学部観光デザイン学科
種田明先生

令和4年6月22日 享年不明

文学部名誉教授
西林昭一先生

令和4年7月8日 享年90歳

卒業生一同、
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

大学院奨学金授与式

令和四年六月十八日（土）、
学業奨励賞として三名の
大学院生が表彰されました。

人文科学研究科
臨床心理学専攻二年

岩根由佳様

大崎詩生様

乙部 萌様



2022年度勸奨校友会一紫会大学院奨学金授与式 2022年6月18日

跡見さくら咲く募金

跡見学園は二〇二五年に創立
一五〇周年を迎えます。
募金については下記QRコー
ドより詳細をご覧ください。



ちょっとメディア〜著書紹介〜

文学部名誉教授 神野藤昭夫先生

◆『よみがえる与謝野晶子の源氏物語』



花鳥社
四一八〇円

文学部人文学科教授 茂木一司先生

◆『視覚障害のためのインクルーシブ
アート教育…基礎理論と教材開発』



ジアース教育新社
三五二〇円

◆『新版増補とがびアートプロジェクト』



東信堂
二七五〇円

— 住所・氏名の変更方法 —

以下の内容を記入し、住所変更と題して下記の一紫会事務局までメール・FAX・封書・ハガキでお送りください。

1. 会員番号（分かる場合のみ記入。『一紫会だより』が届いている方は、封筒宛名の下のNo.です。）
2. 卒業回生・学科名・クラス（回生が不明な場合は卒業年でも可）
3. 氏名（フリガナ）
4. 旧姓（フリガナ）
5. 現住所（郵便物を受け取ることができる連絡先。郵便番号必須・様方など）
6. 電話番号（携帯可）

令和4年7月12日（火）、一紫会会室にて学生会・紫祭実行委員会へ活動費を支給させていただきました。



右：紫祭実行委員長
マネジメント学部
マネジメント学科3年
皆川友奈様

左：学生会会長
マネジメント学部
マネジメント学科3年
渡辺綾乃様



グリーン購入法
適合製品を使用
しています。

各種お申し込み・ご連絡先

〒112-8629 東京都文京区大塚1-5-9 跡見学園 跡見校友会一紫会 FAX:03-3941-8642
ホームページ：<https://ak-issaikai.com/> メールアドレス：issai-kai@atomi.ac.jp